



今年も終わりが近づいている。今年最後の海外訪問はブータン王国だった。自民党圧勝の総選挙直前の訪問だった。

アトランタ五輪女子マラソンで銅メダルを獲得した有森裕子は、レース後に「初めて自分が自分を褒めたい」と語ったが、私も、ブータンで初めて自分を褒めたいと思った。

ブータンへはタイのバンコク乗の換えが一般的だ。バンコクからブータン唯一の国際空港・パロ空港への国営ドゥルック航空は午前7時に離陸予定。空港

には午前5時に行く必要がある。つまり、午前4時前に起床、4時半にはホテルをチェックアウトしないといけないわけだ。その便はバングラディッシュのダッカに立ち寄る。その日はダッカ近郊の天候が悪く、バン

村にあるリゾートホテルだった。最初の訪問先はプナカという

ブータンでの「不幸せ」

日本人の発想は通用しない

コク出発が4時間近く遅れた。寝不足の上、ヒヤヒヤしながらようやく搭乗した。ブータン訪問は、リゾートホテルの取材のためだ。おかげさまで、当社の旅行ガイド第3弾「バル、タパス、アルサック」は無事今月発

た。プナカは昔の首都で、イケメン・ワンチュク国王が結婚式を挙げたところだ。パロ空港から車で3時間とは知っていたが、直線距離で言つとわずか50

瞬間だ。

翌日は逆ルートで首都ティンプーまで戻ったが、その時は美しい棚田の景色を見ず、前しか見ないようになってしまう。

トンネルを掘って高速道路を通せば30分で着くのにと思つたが、山は神聖なものでトンネルを掘るなどんでもないと言われた。日本人の発想はなかなか海外で通用しない。(石井 至)

いしい・いたる 石井兄弟
社長、東京都在住